

小林龍子さんは、勤続16年。大宮区にあるビル管理会社「毎日興業株式会社」で、グループ会社8社の社員・スタッフ計1800人分の給与計算や労務管理を行う経理部署のリーダーを務めています。

初めはパートで入社した小林さんですが、家族の協力もあり、独学で経理や労務を勉強した努力などが認められ、契約社員、正社員へと昇格。2004年には、当時の社員約1100人分の給与計算システムを独自に構築するという大きな改革も実現しました。

他の人の手助けになることが大きな喜びに

仕事でそこまで頑張れる原動力は、「新しいものを一から作り上げることが好き。大変だったことを簡単にできるようにすることで、自分だけでなく、他の人の効率を上げる手助けにもなることが大きな喜びです」と話します。

このように、着実にステップアップを果たしている小林さんですが、結婚した後の再就職では厳しい現実が直面。子どもを保育園に預けて就職先を探したものの、なかなか希望通りには採用されず、さまざまなパートを転々とした経験を持ちます。現

パート→正社員→
役職に就きました！



小林龍子さん ● 1964年さいたま市生まれ。1984年短大卒業後、大手電機メーカーにプログラマーとして勤務。1991年退職、結婚。出産後、数々のパート勤務を経て、1996年現在の会社にパートとして入社。契約社員、正社員を経て、2006年に現職に就く。

【 特 集 】 働く自分が好き。



女性の就業率は徐々に上昇し、さまざまな分野で活躍の場が増えていきます。しかし、下のグラフにもあるように、働きたいと思いつながら、家事や育児との両立が難しいと考え、一歩を踏み出せない人も少なくありません。そこで今回は、今ある環境に負けず、イキイキと働く女性や仕事探しのプロにお話をうかがい、女性の再チャレンジについて考えます。



仕事を続けてよかったこと

いろいろな人に出会えて、いろいろな情報を得ることができます。いつまでも、若々しくいられます！

働きたいと願う女性へのメッセージ

仕事の中身は、やってみないとわかりません。視点を変えると、違う道が開けるはず。悩まず前に進みましょう。

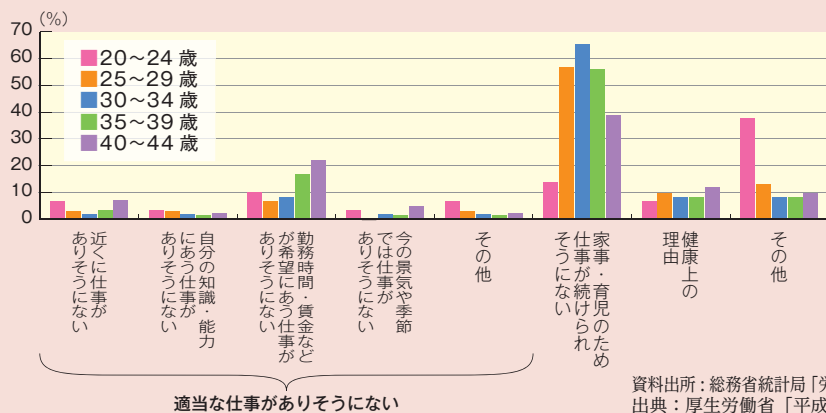
在の会社に入った後も、高校生になった子どもが対人関係に悩み登校拒否となり、仕事仲間にも励まされながら乗り越えた時期もありました。

しかし、「私の場合、悩んでいる時間があれば、改善策を考えます。労務の仕事は奥が深いので、これから、まだまだ勉強していきたいです」と前を向き、努力を楽しんでいます。



▲サポートセンター約30人のサ
ブリーダーとしても活躍しています。

非求職理由別就業希望者の割合



資料出所：総務省統計局「労働力調査（詳細集計）」（平成22年）
出典：厚生労働省「平成22年版 働く女性の実情」

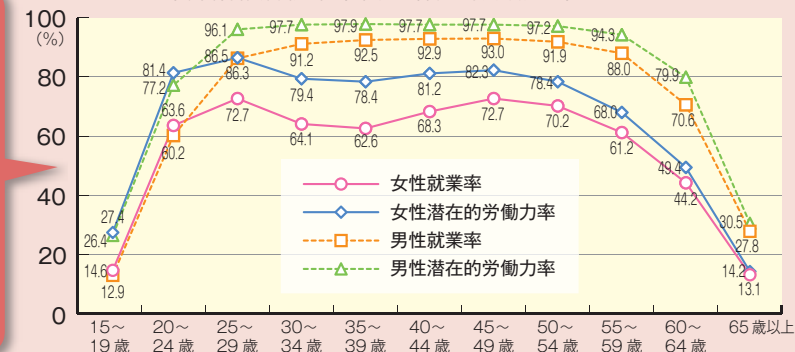
仕事と家事・育児を両立できる環境整備が必要

就業を希望しながらも求職活動をしていない女性について見てみると、「家事・育児のため仕事が続けられそうにない」と答えている割合が、子育て世代にあたる25歳から44歳で非常に高くなっています。こうした女性の就業希望を実現するためには、仕事と家事・育児を両立できる環境の整備が必要です。

働きたいけど働けない?!

男性の就業率は、20代から50代まで大きな差がなく推移している一方、女性の就業率は、結婚や出産による離職者の多い30代が底となるM字型を描いています。また、女性では、就業率と潜在的労働力の差も大きく、働く意欲はあるものの就業に結びついていない人が多いことがわかります。

年齢階級別就業率及び潜在的労働力率



(注) 潜在的労働力率 = (就業者 + 完全失業者 + 就業希望者) / 人口 (15歳以上)

資料出所：総務省統計局「労働力調査（平成22年）」、「労働力調査（詳細集計）」（平成22年）
出典：厚生労働省「平成22年版 働く女性の実情」

調査データ

総務省「労働力調査」の結果から、女性の再就職の実情が見えてきます。